〔2017年度学部等教育研究補助金等報告〕

大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討：2017年度概要

――知床試行演習：世界自然遺産を活用した実践的環境教育プログラムの構築に向けて――

藤野 裕弘*・小栗 和也*・日比 慶久*

1．はじめに

人類社会の持続的存続には，環境問題を広い視野から考え，問題の解決に向けて行動できる人材の育成が必要である。そのような人材育成には，人文・社会・自然科学の垣根を越えた学際的で実践的な教育プログラムの構築が極めて重要となる。その中でも実践的な環境教育への期待は大きく，2000年には国連における日本主導の「持続可能な開発のための教育の10年」がスタートし[1)]，日本では環境教育の推進を目的とした「環境保全活動・環境教育推進法」が2003年に成立した[2)]。

東海大学では，環境分野における学際的な人材の育成とその成果を，地域社会に還元することを目的の一つとした環境憲章を1997年に発表している[3)]。

このような背景の中，教養学部人間環境学科自然環境課程では，自然科学系と人文・社会科学系カリキュラムを融合させた人間環境領域（総合環境科学系）を構築し，人間環境に関わる様々な問題を，人文・社会・自然科学の枠にとらわれない広い視野から考え，問題解決に向けて行動できる人材の育成を目的に，実践的な環境教育プログラムが用意されている[4, 5)]。この特徴的な環境教育プログラムは，2011年度の日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育委員会21期提言の中で引用されるに至っている[6)]。

その代表的なプログラムとして，これまでの実践的環境教育に関する教育研究を踏まえて，数多くの演習を行ってきた[7–57)]。その演習は，地域連携を重視した内容が多く，環境 NPO や初等中等教育機関との連携が主となっている。その中で，2009年度から2012年度まで，複数のコカ・コーラ教育・環境財団寄付演習を実施してきた。

本研究は，これらのスタディ・ツアーを踏まえ，１）地域の自然，歴史と文化の融合による地域知の理解，２）多様な地域の暮らしの知恵に学ぶ地域に根ざしたライフスタイルの理解，３）地域住民との交流に基づく人材育成とこれからの「持続可能な地域づくり」への地域貢献の相互関連性，の３点に着眼した内容の演習プログラムの構築を志向した教育研究である。

受理日2018年11月28日
＊教養学部人間環境学科自然環境課程

今回は，世界自然遺産である知床半島をフィールドとした演習プログラム構築の試みについて報告する。

2．実施概要

自然環境と人間活動の調和のとれた共生社会を創出していくためには，環境保全についてよく理解し，現状の人間環境に関する問題を人文・社会・自然科学の枠を越えた広い視野から考えながら，実践的な保全活動を継続的に行っていくことが必要である。本プロジェクトでは，知床半島全体の多様な自然環境と人間の営みが持続的に両立する地域共生社会の在り方を，演習を通じて考えるプログラムを構築することを目的とする。

まず，知床半島のある北海道を含めた北方文化圏の概要を，自然と人間の営みの歴史（民族学的の視点も含む）の視点から学び，次に，知床半島周辺の理解を，実践を踏まえて理解できるようなプログラム内容を考慮し，日程（表１）ほかを構築した。

利用施設は，北海道立北方民族博物館，モヨロ貝塚館，網走国定公園（原生花園），知床博物館（斜里町），知床世界遺産センター，知床自然センター，知床五湖フィールドセンター，知床五湖フィールドセンター，知床クルーズ，知床国立公園羅臼ビジターセンターなどであるが，これらに関する事前課題を提出し，予備知識を持つように工夫した。

また，ワークシート（表２）を作成し，それに取り組みさせながら演習を進めた。

表１　2017年度知床半島試行演習スケジュール

９月２日（土）	
06:35	羽田空港集合
07:10	羽田空港発→女満別空港（08:50 到着）
	レンタカー（オリックス）手続き（１台：ステップワゴン）
09:20	女満別空港出発　※移動はすべてレンタカーを利用
09:50	北海道立北方民族博物館到着　（12:00 出発）
13:00	モヨロ貝塚館到着　（14:00 出発）
	※移動途中で網走国定公園（原生花園）見学
15:30	知床博物館（斜里町）到着　（16:30 出発）
16:40	ホテル到着　※振返り及び翌日の打合せ後，自由解散
９月３日（日）	
08:00	ホテル出発
	※移動途中でオシンコシンの滝見学
09:00	知床世界遺産センター到着
	※センター職員からのレクチャー
10:00	知床世界遺産センター出発
10:10	知床自然センター到着　（10:40 出発）
10:50	知床五湖フィールドセンター到着
	※職員からのレクチャーの後知床五湖（大ループ）の散策

12:30	知床五湖フィールドセンター出発
14:00	知床岬クルーズ（観光船を利用）
17:00	観光船下を船後，直ちに出発
18:00	ホテル到着　※振返り及び翌日の打合せ後，自由解散
９月４日（月）	
09:00	ホテル出発
10:30	カムイワッカの滝到着
	滝へ徒歩で（周囲散策：ヒグマに注意！）
11:00	カムイワッカの滝出発
12:30	知床峠より北方領土を望む
13:00	知床国立公園羅臼ビジターセンター到着　※周辺散策
14:00	知床国立公園羅臼ビジターセンター出発
16:30	女満別空港到着
18:30	女満別空港発→羽田空港（20:25 到着）

表２　2017年度世界自然遺産知床プログラム構築試行研究ワークシート

＜北海道立北方民族博物館＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜モヨロ貝塚館＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜知床博物館（斜里町）＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜知床世界遺産センター＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜知床五湖フィールドセンター＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜知床岬クルーズ＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜カムイワッカの滝＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

＜知床国立公園羅臼ビジターセンター＞

初めて知った内容を具体的に記載して下さい。
興味を持った内容を具体的に記載して下さい。
知床プログラムでこの施設を見学する必要性に関して，理由を含めて記載して下さい。
時間配分も含め，この施設の見学に関して意見があれば記載して下さい。

3．結果と今後の展開

学生は，事前課題に取り組み，配布されたワークシートに従い，見学や体験先での内容をまとめ，テーマを見失うことなく，実習を行った。実習先でも，宿泊施設に戻ってから，感想を含めた振り返り作業を繰り返した。実習から戻った後は，各自がまとめるテーマの担当を決め，ポスターを作成し，S－プラザで展示発表を行った（2017年12月13日～12月25日）。学生が実習の成果をまとめたポスターは，次ページ以降に掲載する。

現在の課題は，天候によるスケジュール変更への柔軟な対応策を工夫し，より効果的な見学＆体験内容の検討する必要がある。特に，施設見学の比重が高く，実践的な内容が不足している。今後は，これらの課題を改善し，２単位の演習科目として，カリキュラムに組み込む予定である。

成果の公表

事前調査の成果をまとめた「世界自然遺産を訪ねて！～知床半島における実践教育プログラム展開に向けて～」をサテライトオフィス～地域交流センター～で，2017年２月６日（月）～２月10日（金）に実施した。

加えて。本プログラムのポスター展示会「知床半島における実践教育プログラムの展開」を以下の通り実施した。

展示期間：2017年12月13日（水）～12月25日（月）
展示時間：９時00分～17時00分
展示場所：東海大学湘南キャンパス（10号館 S-PLAZA）

謝辞

この教育研究の一部は，2017年度の教育研究補助金により実施された。関係各位並びに参加学生に，感謝申し上げます。

引用文献

１）ESD-J 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議　http://www.esd-j.org/
２）環境省総合環境政策局環境教育推進室，環境教育・環境学習，環境保全活動　http://www.env.go.jp/policy/edu/
３）東海大学環境憲章　http://www.u-tokai.ac.jp/ems/kankyokensyo.htm
４）藤野裕弘・内田晴久・松澤宏・小林一夫：「企業の CSR 活動と連携した実践系授業の展開（１）―CSR と大学院授業との連携―」．2010年度日本環境教育学会第21回大会研究発表要旨集，pp. 156（2010）．

5）藤野裕弘：「地域社会と連携した体験型環境教育の試み～東海大学の実践例～」．私立大学環境保全協議会会誌．第15号．19-24（2012）．
6）日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育委員会21期提言：「高等教育における環境教育の充実に向けて」．2011年９月22日．
7）室田憲一・藤野裕弘　他：NPO と連携した体験学習型教育の試み．2003年度日本環境学会第29回研究発表会講演要旨集．pp. 178-180（2003）．
8）室田憲一・藤野裕弘　他：NPO と連携した体験学習型教育の試み．東海大学紀要教養学部．第34輯．331-333（2003）．
9）NPO 法人自然塾丹沢ドン会編集：名古木の自然―丹沢の雑木林・棚田の復権と生き物たち，夢工房，神奈川．pp. 63（2003）．
10）藤野裕弘・内田晴久　他：環境 NPO と連携した体験学習型環境教育の試み（１）．2004年度日本環境学会第30回研究発表会講演要旨集．pp. 84-85（2004）．
11）室田憲一・藤野裕弘　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（１）．東海大学紀要教養学部．第35輯．271-276（2004）．
12）室田憲一・藤野裕弘　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（２）．2005年度日本環境学会第31回研究発表会講演要旨集．pp. 240-243（2005）．
13）室田憲一・藤吉正明　他：環境 NPO と連携した体験学習型教育の試み―農業体験事例報告―．東海大学紀要教養学部．第36輯．1-11（2005）．
14）北野忠・藤野裕弘　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～ SPP を利用した具体的取り組み例～．東海大学紀要教養学部．第36輯．13-21（2005）．
15）藤野裕弘・内田晴久　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（２）．東海大学紀要教養学部．第36輯．249-255（2005）．
16）北野忠・藤野裕弘　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～ SPP を利用した具体的取り組み例～．2006年度日本環境教育学会第17回研究発表会講演要旨集．pp. 146（2006）．
17）藤野裕弘・藤吉正明　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（３）．東海大学紀要教養学部．第37輯．247-252（2006）．
18）藤野裕弘・内田晴久　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（１）―乗船体験実習―．2007年度日本環境教育学会第18回大会研究発表要旨集．pp. 65（2007）．
19）室田憲一・藤吉正明　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（２）―農業体験実習―．2007年度日本環境教育学会第18回大会研究発表要旨集．pp. 66（2007）．
20）藤野裕弘・内田晴久　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（４）．東海大学紀要教養学部．第38輯．271-278（2007）．
21）内田晴久・藤野裕弘　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み（１）～初等中等教育との連携を中心に～．東海大学紀要教養学部．第38輯．279-285（2007）．
22）藤野裕弘・内田晴久　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（５）．東海大学紀要教養学部．第39輯．289-294（2008）．
23）内田晴久・藤野裕弘　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み（２）～初等中等教育との連携を中心に～．東海大学紀要教養学部．第39輯．295-301（2008）．
24）藤野裕弘・内田晴久　他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（６）．東海大学紀要教養学部．第40輯．365-370（2009）．
25）内田晴久・藤野裕弘　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み（３）～初等中等教育（SSH）との連携を中心に～．東海大学紀要教養学部．第40輯．371-377（2009）．
26）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（１）～．東海大学紀要教養学部．第41輯．309-313（2010）．
27）藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中

心に（１）～，東海大学紀要教養学部，第41輯，315-328（2010）.
28）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（２）～．東海大学紀要教養学部．第42輯．297-304（2011）.
29）藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（２）～，東海大学紀要教養学部，第42輯，305-312（2011）.
30）藤野裕弘・青木靖・松澤宏：企業の CSR 活動と連携した実践系授業の展開（ISO14001の活用）．東海大学紀要教養学部，第43輯，15-22（2012）.
31）藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（３）～，東海大学紀要教養学部，第43輯，329-339（2012）.
32）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（３）～．東海大学紀要教養学部．第43輯．341-349（2012）.
33）藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（４）～，東海大学紀要教養学部，第44輯，269-278（2013）.
34）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（４）～．東海大学紀要教養学部．第44輯．279-284（2013）.
35）藤野裕弘・北野忠　他：八重山諸島共生社会プロジェクト～自然環境と人間活動が調和した環境創出に向けて：2012年度概要～．東海大学紀要教養学部．第44輯．297-308（2013）.
36）藤野裕弘・二宮洋　他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～ふるさとの川を次世代に継承する：2012年度概要～．東海大学紀要教養学部．第44輯．285-295（2013）.
37）藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（５）～，東海大学紀要教養学部，第45輯，355-367（2014）.
38）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（５）～．東海大学紀要教養学部．第45輯．369-372（2014）.
39）藤野裕弘・北野忠　他：八重山諸島共生社会プロジェクト～自然環境と人間活動が調和した環境創出に向けて：2013年度概要～．東海大学紀要教養学部．第45輯．389-415（2014）.
40）藤野裕弘・二宮洋　他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～ふるさとの川を次世代に継承する：2013年度概要～．東海大学紀要教養学部．第45輯．373-387（2014）.
41）北野忠・小栗和也　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（6）～，東海大学紀要教養学部，第46輯，237-242（2015）.
42）岩本泰・藤野裕弘　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（６）～．東海大学紀要教養学部．第46輯．227-235（2015）.
43）藤野裕弘・岩本泰　他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第46輯．243-252（2015）.
44）小栗和也・藤野裕弘　他：八重山諸島共生社会プロジェクト～自然環境と人間活動が調和した環境創出に向けて：2014年度概要～．東海大学紀要教養学部．第46輯．261-274（2015）.
45）藤野裕弘・室田憲一：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2014年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系が目指す里川らしさ～．東海大学紀要教養学部．第46輯．275-287（2015）.
46）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（７）～，東海大学紀要教養学部，第47輯，311-314（2016）.
47）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（７）～．東海大学紀要教養学部．第47輯．315-328（2016）.
48）藤野裕弘・日比慶久　他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第47輯．329-337（2016）.
49）藤野裕弘・小栗和也　他：八重山諸島共生社会プロジェクト～自然環境と人間活動が調和した環境創出に向けて：2015年度概要～．東海大学紀要教養学部．第47輯．345-350（2016）.

50）藤野裕弘・落合由紀子　他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト： 2015年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～．東海大学紀要教養学部．第47輯．351-373（2016）．
51）藤吉正明・高木俊之　他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～流域遊休地活性化コース：藍植物の栽培と染色～．東海大学紀要教養学部．第47輯．375-379（2016）．
52）藤野裕弘・内田晴久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（８）～，東海大学紀要教養学部，第48輯．303-315（2017）．
53）藤野裕弘・日比慶久　他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（８）～．東海大学紀要教養学部．第48輯．317-323（2017）．
54）藤野裕弘・日比慶久　他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第48輯．325-334（2017）．
55）藤野裕弘・小栗和也　他：八重山諸島共生社会プロジェクト～自然環境と人間活動が調和した環境創出に向けて：2016年度概要～．東海大学紀要教養学部．第48輯．341-347（2017）．
56）藤野裕弘・室田憲一　他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト： 2016年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～．東海大学紀要教養学部．第48輯．349-369（2017）．
57）藤吉正明・隈本純　他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～流域遊休地活性化コース：水田での酒米栽培～．東海大学紀要教養学部．第48輯．371-376（2017）．

『知床半島が世界自然遺産に登録されるまでの詳細な過程について』

大学院人間環境学研究科　7BHLM005　田邉　幸歩

○はじめに

2005 年 7 月 17 日　知床は世界自然遺産に登録された

知床…北海道東部に位置し、世界で最も低緯度で海水が結氷する季節海水域であり、海・川・陸の生物全体が独特の食物連鎖を形成している。

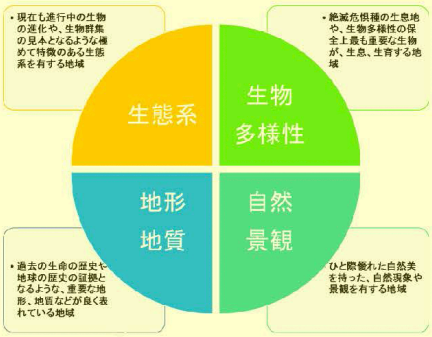
引用：知床自然センターHP

知床では、海水の融解により供給される栄養塩を求めて植物プランクトンが繁殖し、それを餌とする動植物プランクトンが大繁殖し、それを餌とする魚介類やアザラシなどの哺乳類が知床半島の海域に集まり、陸上ではキツネやヒグマ等が河川を遡る鮭を捕食するという**一大食物連鎖**が一年を通じて行われている。海岸から山頂までの間には、人の手の入っていない多様な植生が存在し、シマフクロウ・オオワシ・オジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっている等、その特異な環境により国立公園に指定され、自然を守る法的整備が整っている点で世界自然遺産の候補として上げられた。

【知床】 世界自然遺産登録に関する年表

- 1964 年 6 月…知床半島が知床国立公園に指定
- 1986 年～1987 年…「知床国有林伐採問題」発生
- 1994 年…知床国立公園指定 30 周年
- 1997 年…知床の世界自然遺産登録への本格的な検討開始
- 1998 年…斜里町、羅臼町の町予算に世界遺産登録事業費が計上
- 2003 年 5 月…環境省が知床を世界自然遺産国内候補に選定
- 2004 年 1 月…世界自然遺産候補地として確定。ユネスコ世界遺産センターへ世界自然遺産推薦書を提出
- 2004 年 6 月…国際自然保護連合(IUCN)による現地調査
- 2005 年 5 月…IUCN が審査対象となる自然遺産候補地の評価結果をユネスコ遺産センターに提出
- 2005 年 7 月 14 日…第 29 回世界遺産委員会(南アフリカ共和国のダーバンで開催)
- 2005 年 7 月 17 日…上記の委員会において知床が世界遺産に登録されることが決定
- 2008 年 2 月…ユネスコ世界遺産センター及び IUCN 現地調査が行われ、河川工作物などの現地調査を通じ、地域社会や関係者の参画による管理と、科学委員会及び各ワーキンググループの設置を通じた科学的知見に基づく管理を賞賛し、他の世界自然遺産地域の管理モデルと評価
- 2008 年…世界遺産保全の為に各管理計画の策定や取り組み状況など 9 項目に勧告が第 32 回委員会決議
- 2009 年 3 月 27 日…知床世界自然遺産地域連絡会議が知床世界自然遺産地域のシンボルマークを決定
- 2012 年 2 月 1 日…世界遺産センターに報告書を提出するようにとの通達が来ている

世界自然遺産のクライテリア(登録基準)　この登録基準は大きく４つの項目で分けられている。



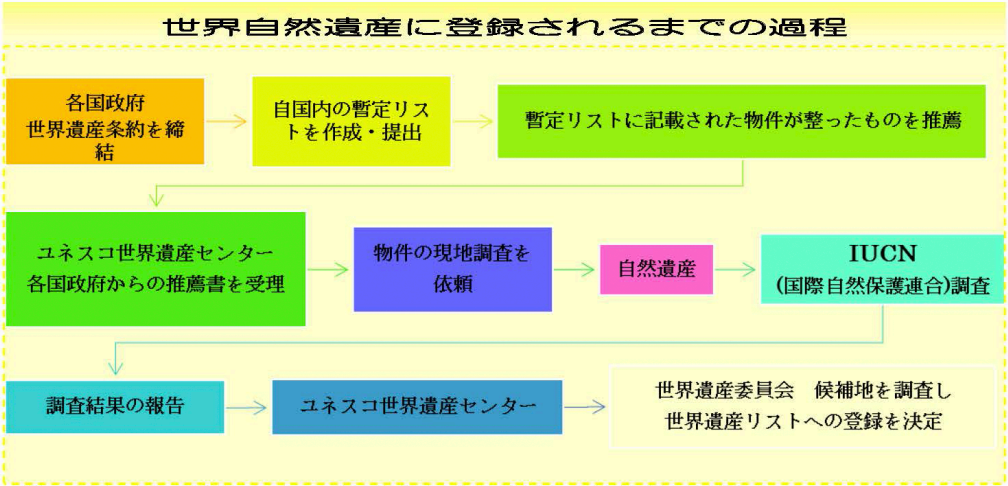
➜４つの項目のうち、知床は生態系と生物多様性の２つの項目に当て嵌まった。

知床が世界自然遺産に登録されるに至った評価３つのポイント

・**生態系**「流氷から生まれる食物連鎖」… 冬、知床の海を覆いつくす流氷と共に運ばれてくる栄養分は、流氷が融解した時に栄養塩として供給される。それにより、栄養塩を餌とする植物プランクトンが繁殖し、それを餌とする動植物プランクトンが大繁殖し、それを餌とする魚介類やアザラシなどの哺乳類が知床半島の海域に集まり、陸上ではキツネやヒグマ等が河川を遡る鮭を捕食するという特異な生態系が形成されており、一大食物連鎖が一年を通じて行われている。この海・川・陸の生物全体が独特の食物連鎖を形成しており、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本であると言われている。　※知床の川は海と陸の栄養の循環の大動脈としての役割を果たしている。

・**生物多様性**「希少な動植物」… 知床には、シマフクロウやシレトコスミレといった絶滅危惧種や希少な動植物が数多く見られる。ヒグマやエゾシカ、トドやアザラシなどの大型哺乳類も高密度で生息しており、オジロワシやケイマフリなど、国際的に希少な海鳥が繁殖すると共に、オオワシのような渡り鳥にも重要な地域である。知床の多様な環境が、多様な生息環境と餌資源を提供し、生物多様性が成り立っている。又、国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっている。

・**保護管理体制**「日本初の科学的調査に基づいた管理を実施　国内トップレベルの保護活動」… 動植物の保全や、その生息域である森林や海、川の管理計画策定のご意見番として「知床世界自然遺産地域科学委員会」、人の利用と自然の保全の両立を目指す「知床国立公園利用適正化検討会議」、「知床エコツーリズム推進協議会」などが設置され、遺産地域の管理計画を自然科学・社会科学の視点から練り上げ、立案されている。世界遺産としてふさわしい保護管理ができているとの評価が、遺産登録に至れた要因である。
※日本が提案した「自然景観」は登録基準に合致しないと判断された。



※ユネスコ世界遺産センターの暫定リストに記載された物件で、原則として条件が整っている物件から、各国１年１件ユネスコ世界遺産センターに推薦できる。

○**世界遺産と世界自然遺産**…世界遺産は、人間の歴史の中で生み出されたさまざまな遺産のうち、地球上で様々な国の人々が誇る、自然の環境や、文化財を登録し保護する制度である。世界遺産は文化遺産と複合遺産、そして自然遺産に分類される。世界遺産の中でカテゴリー自然に分類されたのが世界自然遺産である。知床は自然遺産である。自然遺産とは、世界的な見地から見て鑑賞上、科学上、保全上顕著な普遍的価値を有する特徴ある自然の地域、脅威に晒されている動植物種の生息地、自然の風景等を対象としている。

○**世界自然遺産**…自然遺産は細かく８つに分ける。「Ia」は厳正保護地域、「Ib」は原生自然地域、「II」は天然記念物、「IV」が種と生息地管理地域、「V」が景観保護地域、「VI」は資源保護地域の事である。この他にも四川省のジャイアントパンダ保護区などのように、カテゴリーに分類できないものもある。

○**日本の世界自然遺産**…日本で登録されているのは４件で、①屋久島【鹿児島県(平成５年 12 月)】、②白神山地【青森県・秋田県(平成５年 12 月)】、③知床【北海道目梨郡羅臼町・斜里郡斜里町(平成 17 年７月)】、④小笠原諸島【東京都(平成 23 年６月)】である。

○**世界遺産委員会**…世界遺産条約締結国の中から選ばれた 21 カ国によって構成される委員会で、世界遺産リストや危機遺産リストを作成している。また、登録された遺産のモニタリングや保護を支援し、世界遺産基金を用いて援助を行う。

○**ユネスコ世界遺産センター**…1992 年にパリのユネスコ本部内に設置された、世界遺産委員会の事務局。委員会の開催の為の事務作業や締結国への技術・情報提供、世界遺産基金の運営等を行っている。

○**IUCN(国際自然保護連盟)**…全世界の協力で国家や政府機関、非政府機関で 1948 年に構成された自然保護機関の事であり、日本にも IUCN 日本委員会がある。世界遺産に対して重要な役割を果たし、ユネスコの世界遺産委員会に対して技術的な評価を自然遺産候補に対して下す、公式な諮問機関である。IUCN の WCPA(世界保護地域委員会)が軸となり、自然遺産の技術的な評価や調査を行う。WCAP がその地域を調査し、登録基準である「優れて普遍的な価値」があるのか、他の共通点のある遺産路比較する。その上で、その自然性や保護の制度も調べ、自然遺産の登録について意見や助言を述べる機関である。国際自然保護連合(本部スイス/グラン市)のことでユネスコから委託された世界自然遺産の審査機関である。77 の国家委員、114 の政府機関会員、807 の NGO、約１万人科学者をメンバーとする世界最大の自然保護機関である。

・引用 HP　知床自然センター/知床データセンター　・引用文献　知床の自然保護/世界遺産知床がわかる本

２０１７年度　知床半島環境教育実践プログラム構築試行研究
９／２の知床プログラムに関して～知床の雄大な自然に触れて～

５ＢＨＮ１１３８　河村　理子

6：35
羽田第１ターミナル
３番時計台前集合

7：10
羽田空港　出発

8：15
女満別空港　到着

9：20
女満別空港　出発

9：50
北海道立北方民族博物館
見学

12：00
昼食

13：00
モヨロ貝塚　見学

移動

15：30
斜里町立知床博物館
見学

16：40
ルートイングランティア
知床斜里駅前
到着

北海道立北方民族博物館

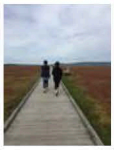
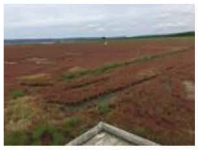
北方民族博物館では、北方圏地域の文化や社会の共通性や、地域的な違いについてさまざまな展示物を通して知ることができる。広く北方の諸民族の文化と、北海道のオホーツク文化を学ぶことができた。

今回行った期間には、“ユーラシア北方のウマ牧畜民”という特別展示が行われていた。

モヨロ貝塚

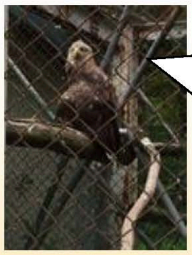
モヨロ貝塚は今から約 1300 年前の網走に暮らした「モヨロ人」のムラあとである。館内では、モヨロ人の暮らしを“住居”“墓”“貝塚”のテーマごとに展示・紹介がされている。史跡内では、オホーツク文化の復元された住居や墓、続縄文時代の住居跡群を見ることができた。

網走国定公園

＜見学施設クローズアップ：斜里町立知床博物館＞

知床博物館では、農業や林業、商業などの歴史について、さまざまな紹介がされている。発掘された土器なども展示されていた。他には知床の動物や自然についても紹介されていて、動物の剥製や骨格標本が展示されていた。展示物が多いのでとてもわかりやすく楽しく見学することができるので、おすすめの博物館である。



＜オジロワシ＞

敷地内には野外観察園があり、ここでは交通事故などで怪我を負っているオジロワシやオオワシを保護している。オジロワシもオオワシも共に絶滅危惧種に指定されている。また、オジロワシは、斜里町と羅臼町が町の鳥に指定し、知床のシンボルとなっている。天然記念物として長らく保護されてきているのである。

↑1896年海岸に漂流したミンククジラ

知床博物館には、姉妹町友好都市交流記念館が併設されている。姉妹町である沖縄県竹富町、友好都市である青森県弘前市の自然や文化について紹介されている。また、竹富町のイリオモテヤマネコの剥製や弘前市のねぷたなどが展示されている。

２０１７年度　知床半島環境教育実践プログラム構築試行研究
９／３の知床プログラムに関して～知床の雄大な自然に触れて～

５ＢＨＮ１１３８　河村　理子　５ＢＨＮ１２３１清水　穂乃香

８：００
ルートイングランディア知床
斜里駅前　出発

８：３０
オシンコシンの滝　見学

９：００
知床世界遺産センター

１０：１５
知床世界遺産センター
出発

１１：００
知床五湖フィールドセンター
知床五湖散策開始

１３：１５
カムイワッカ湯の滝　到着

１５：４５
知床峠　到着

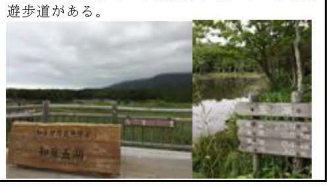
１６：１５
羅臼ビジターセンター経由

１６：３０
羅臼町　到着
試行プログラム検討

１８：００
ルートイングランディア知床
斜里駅前　出発

知床五湖フィールドセンター

知床五湖は、植生保護や人とヒグマとの軋轢解消を目的として、利用調整地区制度が導入されている。２つの歩き方が提供されており、自由に安全に歩くことができる高架歩道とガイドの同行やレクチャーが義務付けられている地上遊歩道がある。

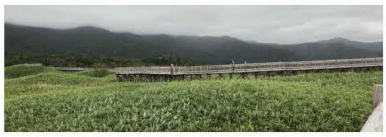


オシンコシンの滝

アイヌ語で「オシュンク　ウシ（そこにエゾマツが群生するところ）」と由来する。流れが２本になっていることから、別名「双美の滝」とも言われる。また落差は約３０ｍのある滝である。

知床峠に到着

当日は知床峠が台風の影響で視界不良となり、北方領土が確認できなかった。そのため翌日にも確認を試みた。



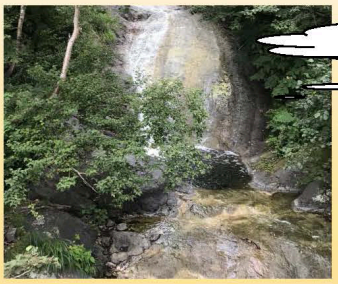
知床移動中の山道にて

エゾシカやキタキツネに遭遇。エサを求めて山道のすぐ近くまで接近してくる様子を確認することができる。（但しこの時エサを与えてはならない。）

＜見学施設クローズアップ：知床世界遺産センター・カムイワッカ湯の滝＞

知床世界遺産センター

ここでは、世界遺産を訪れるにあたってのマナーやルールを知ることができ、知床に着いたらまず一番に足を運ぶべき場所である。ヒグマやエゾシカなどの知床に住む動物の実物大の大型写真パネルや、動物の痕跡の模型などが展示されている。実物大のぬいぐるみなど、楽しく学べるハンズオングッズもあり、小さい子供でも楽しめるのではないだろうか。展示物だけでなくレクチャールームでは、映像で知床を知ることができる。また、歩道・道路も通行情報、船の運航状況がわかる掲示もあり、これから観光する人には便利である。



カムイワッカ湯の滝

カムイワッカ湯の滝とは北海道斜里郡斜里町遠音別にある滝で知床硫黄山から湧く温泉が川に流入しているためその川、滝は温水となりとても強い酸性である特徴を持つ。下流には落差約３０ｍもあるカムイワッカの滝があるが、崖のような構造のためこちらは遊覧船でのみ見ることができる。その日の気温によっても変動するが、川の温度はややぬるいと感じる程度で斜面はかなり急斜面である。所々に水の勢いが強いところがあり、転落する恐れがあるため注意が必要である。またこの近辺にはヒグマが頻繁に出没することや利用時間（日の出から日の入りまで）など詳しく決められているため事前に確認し、向かうことが求められる。

２０１７年度　知床半島環境教育実践プログラム構築試行研究
９／４の知床プログラムに関して～知床の雄大な自然に触れて～

５ＢＨＮ１２３１　清水　穂乃香

10：00
ルートイングランディア知床
斜里駅前　出発

10：50
オロンコ岩　散策

11：30
知床峠　経由

12：00
道の駅 知床・らうす　到着
昼食・休憩

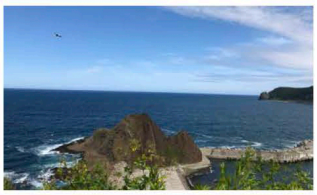
13：30
標津サーモン科学館　到着
館内見学

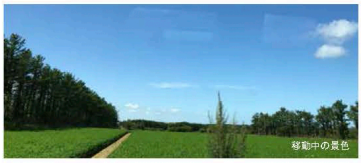
16：30
女満別空港　到着
搭乗準備

20：30
羽田空港国内線ターミナル
到着

オロンコ岩

アイヌ語でオロンコ岩とは「そこに座っている岩」という意味をもつ言葉に由来しており、高さ約60mにもなる。ここは先住民族の戦地としても知られており、オホーツク海が一望できるため人気のスポットである。（写真は頂上より撮影）





知床峠

天候次第で運が良ければ北方領土である国後島を見ることができる。昨日には確認できなかったが最終日には国後島を確認することができた。知床八景ともいわれており、人気のドライブコースとなっている。

道の駅　知床・らうす

国道335号線沿い羅臼町にある道の駅。ここではオホーツク海を見ながら食事や休憩をとることができる。中には鮮魚や干物、お土産など幅広く扱っており、大人から子供まで楽しむことができる。運が良ければシャチやクジラを確認することができ、近くには観光船なども充実している。

＜見学施設クローズアップ：標津サーモン科学館＞

標津サーモン科学館

ここでは、サケ科の仲間たち約18種30種類以上を見学することができ、サケの水族館としては日本一を誇る。所在の標津町ではサケの水揚げが盛んであり、施設内では標津産のサケを使用した食事も楽しめる。施設のメインである大水槽では根室海峡付近に生息する魚たちや世界各地から集められたサケ科の仲間たちを見ることができる。他にも魚道水槽がありここでは稚魚や遡上、産卵などの様子が季節によって確認できる。今回は９月に向かったためちょうどカラフトマスなどの遡上が行われている時期であった。

稚魚コーナーやサケ科川魚の観察コーナー、チョウザメの指パク体験など大人から子供まで楽しめる展示が盛りだくさんとなっている。

雑学などの興味を引く解説でサケについて詳しく分かる！

展望台からは知床連山や国後島などのきれいな景色を見ることができる。

地上から約30m
雄大な自然を一望できる！

また教育活動も盛んにおこなわれており、稚魚の放流やサケ人工授精・解剖体験、産卵行動の観察会など季節ごとになかなか体験することができないプログラムを実施している。

2017年度　知床半島環境教育実践教育プログラム模索試行研究

夏の知床プログラム　～冬の演習と比較して～

5BHN1138　河村　理子

＜冬のプログラムと比較して：人との関わりから考える＞

☆環境保全演習Ｃ

栗山町では現地の方々とのかかわりがとても多かった。そのため自然と人とのかかわりや利雪についてなど、現地の声を聞くことができ貴重なお話しをしていただいた。また、ジャガイモの収穫をさせてもらい、実際に体験できたことはとても貴重であった。

☆知床試行演習

知床では、現地の人とのかかわりがあまりなく、遺産センターで話を聞いたくらいであった。そのため自然遺産である知床で、具体的にどのような保護活動を行っているのかを知るには不十分な演習であったと感じた。

その一方、博物館に足を運ぶ回数が多く、昔の人の知恵などを展示物などから知ることができた。

２つのプログラムを振り返って

２つを比較してみて、人とのかかわりを増やすことによって、より深くその現場のことを知ることができるのではないかと感じた。しかし、博物館に足を運んで、展示物を通して知ることもとても大事であると感じたし、環境保全演習Ｃで学習したアイヌの歴史については、実際栗山町ではあまり深く知ることができなかったが、知床で行った北方民族資料館で展示物などを見ることができ、ここにきてアイヌの歴史について確認することができた。知床では現地の方々との関わりが少なかったため、保全活動について実際の現場の声を聞く機会があればより理解が深まり、良いと思った。同じ北海道でも、季節が異なり、位置する場所が全く違うため、異なった演習であった。環境保全演習Ｃに参加したら知床演習もぜひ参加するべきだろう。

＜知床プログラムを体験して：世界自然遺産を学ぶ＞

知床が世界自然遺産に認められたところは…？

１．流氷がもたらす海の恵み
２．サケ類がのぼる川が結ぶ海と陸とのつながり
３．海と川と森が支える貴重な野生生物

知床世界遺産センター

遺産センターは、世界遺産知床を学ぶ上で、必要不可欠な場所であった。世界遺産に認められた流氷の恵みや生態系などについて展示物などから、詳しく知ることができた。

羅臼ビジターセンター

今回のプログラムでは、あまり主軸となる場所ではなく見学時間はほとんどなかったが、知床のなりたちなどについて遺産センターとはまた違ったことも知ることができると感じたので、少し時間をとって見学できたらよいのではないかと感じた。

標津サーモン科学館

世界遺産に認められたサケ類がのぼる川が結ぶ海と陸とのつながりという点で、この科学館では魚道水槽がありサケの誕生から産卵まで季節によって異なる様子が確認でき、世界遺産知床にかかせないサケ類について楽しく知ることができた。また、今回のプログラムでは体験できなかったが教育活動もさかんに行われている場所であるので、そのような体験もできたらさらに良いのではないかと感じた。

今後のプログラムとして…

私は今回のプログラムを体験し、実際に知床の保護活動に携わっている方から直接話を聞くことができたらよいのではないかと感じた。実際に携わっている人と関わることによって、さらに多くのことを得て、感じることができると思うし、この演習後に私たちが環境保全を考えていくうえでプラスになるのではないかと思った。

2017年度　知床半島環境教育実践教育プログラム構築試行研究

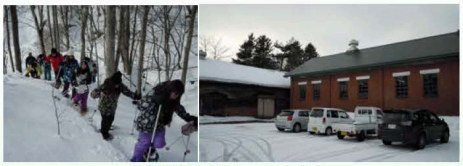
夏の知床プログラム　～冬の演習との比較とプログラム提案～

5BHN1231　清水　穂乃香

＜冬のプログラムと比較して：共通テーマの必要性とそれぞれの視点から＞

1．冬の環境保全演習Cコース（栗山町）概要

北海道夕張郡にある栗山町は内陸の土地であり、12,000人ほどが暮らす自然豊かな町である。ここでは雪を利用し産業などに役立ててきた。主に利雪として雪を食材の保存やスポーツ・娯楽として利用することや雪の重みに耐えられるような歴史的建築物、これらを含めた産業等で雪は栗山の歴史に大きく関与してきた。この栗山の大自然を感じながら地域活性化として私たちが栗山スタディーツアーの提案・発表までをおこなった。



1．冬の環境保全演習Cコースの様子

2．夏の知床プログラムの様子

2．知床プログラム概要

知床半島は北海道北東部に位置する標高1,500mの山々が連なる地域や湖沼、断崖などが特徴の周辺の海域や陸地を含むおよそ71,100haの地域が世界自然遺産に登録されている場所である。本試行プログラムでは自然やその地域に生息している動植物の観察や保全のための取り組み、その地域の歴史などについて触れながら冬の演習との比較することを目的とした。

3．冬の環境保全演習Cコース（栗山町）との比較

知床プログラムが世界自然遺産や維持するための保護活動・環境保全について学ぶことができるのに対し、環境保全演習Cコースでは環境保全に加え、それらを利用した人々の暮らしや産業、文化について地域性にどう関わってきたのかを学ぶことができる。どちらにも共通して事前に学習していくことが必要であると感じた内容としてはその地域の歴史や先住民族についての知識である。特にアイヌ史は北海道を知る上でも重要であるのに加え、今でもアイヌ語が語源の言葉が多数存在する。他にも今の暮らしがどう変化してきたのかを知るためにこれらを知っておく必要があると感じた。これより、地域の歴史や環境保全に関しては両方で学ぶことができるが夏の演習は環境保全に比重を置き、冬の演習はそれらの自然を利用した産業や暮らしなど夏の演習よりも発展的な内容であると感じた。

＜知床プログラムを体験して：世界自然遺産とプログラムの提案の視点から＞

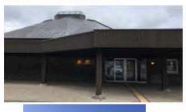
プログラム提案に向けて　知床プログラムでは主に世界自然遺産やそれを維持するための環境保全について学ぶことができる。特に世界自然遺産については自然遺産登録の流れから登録後の自然保護、また実際に生息している動植物の観察・体験を通して知見を深めることが可能である。今回の試行プログラム内で特にこれらを学ぶことができると感じた施設・名所について取り上げていく。

施設

『北方民族博物館』先住民であるアイヌ民族の暮らしや文化、また周辺の北方民族について総合的な展示がされている。

『知床世界遺産センター』世界自然遺産に登録されるまでの取り組みや現在の保護活動、土地の模型や生態系の展示が充実している。

『標津サーモン科学館』サケ科の生き物だけでなく、根室海峡や標津で生息する魚類も展示され解剖や稚魚の放流など貴重な体験ができる。



名所

『知床五胡』寒冷な環境から泥炭層が形成され、湿地となっている。知床の観光スポットでもあり雄大な自然を感じることができる。

『カムイワッカ湯の滝』知床半島の中央に位置する硫黄山付近で温められた温水が川にしみ出している非常に珍しい場所である。

『オホーツク海』沿岸部を散策すると氷河に削られた知床半島ならではの地形を確認できる。深い青色のオホーツク海は夏季でも美しいが冬季は流氷も見ることが可能であり絶景である。

上記の施設・名所では知床の豊かな自然や生態系を体験でき、知見を広げることができると感じた。これらをプログラム内に組み込むことで世界自然遺産とのつながりや実際の様子、保護活動まで幅広く学習できると考える。特に知床世界遺産センターでは時間をとって学習することでこのプログラムにとって深い学習になるのではないかと考える。